

三重の木を使おう、
森を育てるために



木をよく
知ろう

木と
もっと
親しまう

木を使おう

三重の林業



社会福祉法人が取り組む、クヌギの育苗や
植樹の様子

(関連記事8ページ)



目次

話題を追って	久居農林3年生がチェーンソー伐木等特別教育・刈払機取扱安全衛生教育を受講しました	2
話題を追って	「こども森の写真教室」を開催しました	3
	林業研究所 普及・森林教育課	
話題を追って	熊野地域の巨樹を訪ねて ～御浜町の引作の大クス～	4
	熊野農林事務所 林業普及指導員 小林 直美	
話題を追って	熊野市立飛鳥中学校で、出前授業を実施しました。	4
	熊野農林事務所 林業普及指導員 小林 直美	
話題を追って	松阪市立飯高中学校にて「セーザイゲーム」を実施しました！	5
	松阪農林事務所 林業普及指導員 角屋 圭祐	
話題を追って	ヤマザキ椎茸園が第59回全農乾椎茸(ほしいたけ)品評会で林野庁長官賞を受賞しました。	6
	松阪農林事務所 林業普及指導員 角屋 圭祐	
話題を追って	遊びながら森を知る～伊賀市の体験型なぞ解きゲームが始まりました～	7
	伊賀農林事務所 林業普及指導員 二宮 健介	
話題を追って	拾って、育てて、里山へ。森林と福祉がつながる社会福祉法人名張育成会が取り組む ～TSUNAGU(つなぐ)どんぐりプロジェクト～	8
	伊賀農林事務所 林業普及指導員 二宮 健介	
頑張ってます！	意外と多い事務作業、パソコンスキルを林業で活かす！	9
	中勢森林組合 福井 大地さん	
この人に聞く	第124回 尾鷲市 水産農林事業推進課 千種 正則さん	10
	紀北町 農林水産課 奥村 京英さん	
	聞き手：尾鷲農林水産事務所 林業普及指導員 伊藤 克之	
連載	<三重大学>第38回 三重大学・地域脱炭素バイオマス研究センター	12
	木質分子素材制御学研究分野 野中 寛	
技術情報	スギコンテナ大苗の植栽コスト検証	14
	林業研究所 主査研究員 海津 江里	
投稿	三重の林業統計数字を読み解くシリーズ②	16
	新設住宅着工戸数の動向について～住宅着工戸数は約60年前の水準！～	
	三重県林業技術普及協会 顧問 佐々木 太	
木材市況	木材市況(令和8年8月)	18
その他	三重の林業(令和8年7月号)を読んで	18
	～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～	

2026年9月
No. 454

バックナンバーはこちら



久居農林3年生がチェーンソー伐木等特別教育・刈払機取扱安全衛生教育を受講しました

林業研究所 普及・森林教育課

林業研究所では久居農林高校環境保全コースの3年生7名を対象に、5日間にわたるチェーンソー伐木等特別教育と刈払機取扱安全衛生教育を実施しましたので、その様子をご紹介します。

(はじめに)

三重県では、高校教育の充実と新規林業就業者の確保を図るため、令和3年10月に久居農林高校と三重県林業研究所が林業人材の育成に関する覚書を締結しました。これにより、1年生から3年生までが森林・林業を体系的に学ぶ、一貫した職業教育プログラムを実施しています。林業の作業に必要な資格の取得やインターンシップなど、実践的な学びを通じて林業への理解を深める取組が行われています。

今年度もその一環として、5月1日から5日間にわたり、環境保全コースの3年生7名を対象に「チェーンソー伐木等特別教育・刈払機取扱安全衛生教育」を実施しました。林業の現場では安全の確保が何より重要であり、安全作業に資する研修の実施が重視されています。

(チェーンソー伐木等特別教育)

チェーンソー実習では、卒業を控えた3年生らしく、生徒たちの表情にはこれまで以上の真剣さがありました。2～3人の班に分かれ、林業普及指導員の指導を受けながら、受け口・追い口の形や角度、伐倒方向、ツルの幅を確認し、生徒同士で反省や改善点を話し合いながら練習を重ねました。中には、驚くほど手際よく受け口・追い口を作る生徒もあり、これまでの学びの成果がうかがえました。



チェーンソーの点検と整備



チェーンソーワークを磨く

(刈払機取扱安全衛生教育)

刈払い機の講習では、機械の構造や機能、振動障害に関する座学の後、林業研究所構内の芝生広場で実習を行いました。植栽苗木に見立てたプラスチック杭の周囲を刈り払う作業では、刃が杭に当たる音がたびたび響き、下刈り作業の難しさを実感する場面もありました。苗木を傷つせず、周囲の草だけを確実に刈るには、正確な操作と集中力が求められます。道路沿いの草刈りなど、林業以外の現場でも日常的に行われる作業であるだけに、正確な操作の大切さを学ぶ貴重な機会となりました。

(おわりに)

覚書の締結から6年目を迎えたこの取組は着実に根を張りつつあります。これまでに多くの生徒が林業関係に就職しており、今年も受講した7名のうち4名が林業関係への就職を希望しています。森林・林業の魅力と厳しさの両方に触れた高校生たちが、将来の進路として林業を選び、地域の森林を支える担い手となってくれることを期待しています。



植栽苗木に見立てた杭の周囲を刈り払

「こども森の写真教室」を開催しました

林業研究所 普及・森林教育課

毎年開催している「こども森の写真教室」は今年で11回目を迎えました。当日の様子について報告します。

県では、カメラを通して森や自然のおもしろさや豊かさを発見してもらうことをテーマに、小中学生とその家族を対象に「こども森の写真教室」を開催しています。

今年は6月28日(日)に三重県総合博物館(MieMu)において、講師に写真家の松原豊さんをお迎えして開催し、14組35名(保護者16名、こども19名)の方にご参加いただきました。

松原さんには第1回開催から講師をしていただいています。

参加者の皆さんは、カメラの扱い方や撮影時のコツなどのレクチャーを受けたのち、ミュージアムフィールドの森に出かけ写真撮影を行いました。



レクチャールームでの座学



森の中の撮影ポイントのレクチャー



親子で撮影にトライ

当日は台風の余波で小雨模様でしたが、屋外撮影時には雨も上がり、雨露に映える森の姿を撮影することができました。

会場に戻ってからは、撮影作品に対するアドバイスを受けました。

参加者したこどもたちからは「写真をとるのが面白かった」「森の中は気持ちがいいと感じた」「いろいろな木があることがわかった」「葉っぱの緑色がきれいと感じた」「自然をたくさん感じられたし、おもしろかった」といった感想が寄せられました。

また、保護者の方からは「子どもが森と写真に興味を持ってくれた」「身近な自然で素敵な写真が撮れることがわかった」「子どもと一緒にまた写真を撮りに森に行きたいと思った」といった感想が寄せられました。

写真撮影を通して、森や木に興味や親しみを持っていただく良い機会になったのではと感じています。



<第13回みえの森フォトコンテストのご案内>

県では「三重の森林」をテーマとして、「森林や木」「森林や木と人とのふれあい」などについて表現した写真を募集しています。

応募期間は令和8年6月19日(金)～令和8年11月2日(月)まで。

応募資格や応募方法など詳細は県のホームページをご確認ください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/EVENTS/evt0014100051.htm>

熊野地域の巨樹を訪ねて ～御浜町の引作の大クス～

熊野農林事務所 林業普及指導員 小林 直美

熊野管内には、県や市の指定記念物に選定されている巨樹が数多くあります。悠久の時を刻んできたこれらの巨樹の中から、今回は、御浜町の「引作の大クス」をご紹介します。

○御浜町の「引作の大クス」

御浜町引作の引作神社にある「引作の大クス」は、幹周囲約15m、樹高約31mを誇り、県内有数の太さを誇るクスノキの巨樹です。昭和11年に県指定天然記念物、平成元年には新日本名木百選に選ばれました。樹齢は約1500年ともいわれ、その堂々とした姿は、見る人を包み込むような大きな存在感を放っています。

過去には伐採の危機を乗り越え、今もなお力強く生き続けるこの大クスは、地元の人々に神木として大切に守られており、樹勢も良好な状態に保たれています。

ぜひ一度足を運び、その雄大な姿を間近で感じながら、巨樹の息吹に触れてみてください。



引作の大クス

<アクセス>

〒519-5205 南牟婁郡御浜町引作456



熊野市立飛鳥中学校で、出前授業を実施しました。

熊野農林事務所 林業普及指導員 小林 直美

令和8年7月1日（水）、熊野市立飛鳥中学校で、晃榮林業株式会社と連携し、「地域とともに～地域の方から学ぶ～『森林で働く』」を実施しました。

熊野市立飛鳥中学校では、全校生徒を対象に、保護者から仕事の内容ややりがい聞き、働くことの意義や地域の魅力について学ぶ授業が行われました。

その授業の一部として、晃榮林業株式会社の濱口さんと連携し、「森林で働く」をテーマに熊野市の森林の現状、森林の持つ多面的な機能や森林・林業に携わる人々の仕事についてお話ししました。濱口さんからは現場の声や林業の魅力を、私は林学職の県職員の立場から仕事の内容や地域貢献のやりがいをお伝えしました。

授業後には、「熊野の自然の良さを改めて感じた」「自然を守るために自分にできることを考えたい」「林業の魅力を伝えていきたい」といった感想も寄せられました。この授業が、熊野の豊かな森林を

守り育てる林業や林学職の県職員という仕事に興味を持つきっかけになれば嬉しく思います。

また、木工作家や看護師として働く保護者も授業に参加し、それぞれの仕事の魅力を語りました。生徒たちにとって、将来を考えるきっかけとなる時間になったのではないのでしょうか。



熱心に授業を聞く飛鳥中学校の生徒のみなさん

松阪市立飯高中学校にて「セーザイゲーム」を実施しました！

松阪農林事務所 林業普及指導員 角屋 圭祐

令和8年6月16日（火）、地域の資源の魅力を知ってもらうこと、自分たちの暮らしと森林とのつながりを考えてもらうことを目的に、松阪市立飯高中学校でセーザイゲームを実施しました。

◆経緯

令和8年6月16日、松阪市立飯高中学校の全校生徒（1～3年生43名）を対象に、セーザイゲームを実施しました。

山に囲まれ、林業が盛んな飯高地域ですが、子どもたちが日常の中で山に入る機会というのはほとんどないのが現状です。また、地域内の小学校では、森林教育活動が活発に行われていますが、中学校との連携はまだまだこれからといったところでした。

さらに、飯高地域が全国でも有数の優良な木材の産地であることも子どもたちにはあまり知られていないのではといった印象がありました。

このため、飯高中学校の校長先生、教頭先生に、地域の資源の魅力を知ってもらうこと、自分たちの暮らしと森林とのつながりを考えてもらうことを目的に「セーザイゲーム」の実施を提案したところ、ご快諾をいただき、今回「セーザイゲーム」を実施する機会をいただきました。

◆当日の様子

当日は、5、6限目の2時限にわたってゲームを実施し、子どもたちはチームで協力しながらとても熱心にゲームに取り組んでくれました。特に、「せり」で良い丸太（S材）が買えたときには大きな歓声があがりとても盛り上がっていました。

授業の最後に生徒の皆さんから感想をいただきましたが、ゲームを通じて林業・製材業の仕事を学ぶとともに、地域の資源の魅力を知り、あらためて森林とのつながりを考えてもらえた様子でした。

また、授業後には、「せり」に関する詳しい質問や、「また来てください」といった声をいただき、こちらとしても大変ありがたく感じたところです。



「せり」で盛り上がる子どもたち



チームで協力して製材所を経営

◆今後に向けて

今年度、いくつかの学校でセーザイゲームを実施させてもらっていますが、いずれの学校でも、参加した子どもたちが、とても楽しく熱心にゲームに取り組んでくれており、セーザイゲームの面白さをあらためて感じているところです。

また、ゲームを通じて、子どもたちが林業や製材業を知り、木材を見る目が変わっていくという効果を実感しており、ゲームを開発された熊野林星会と三重大学にあらためて敬意を表します。

今後も、飯高中学校と連携した活動が継続していけるよう取り組むとともに、他の学校等においてもセーザイゲーム等の森林教育活動に取り組み、みんなで支える森林づくりや地域の森林・林業の活性化等につなげていきたいと思っています。

ヤマザキ椎茸園が第59回全農乾椎茸（ほししいたけ）品評会で 林野庁長官賞を受賞しました。

松阪農林事務所 林業普及指導員 角屋 圭祐

◆第59回全農乾椎茸品評会

第59回全農乾椎茸（ほししいたけ）品評会審査会が埼玉県上尾市にて開催され、多気郡多気町のヤマザキ椎茸園が、「上どんこ」の部の第1位となる林野庁長官賞を受賞しました。

全農乾椎茸品評会は、国産原木乾椎茸の継続的な生産と品質向上、消費拡大を目的として、毎年、全国農業協同組合連合会が開催している品評会です。昨夏の高温や冬場の干ばつの影響により、原木乾椎茸の春子作柄が、全国的に厳しい状況となる中、今年は、全国14県から239点の乾椎茸が出品され、「上どんこ」の部において、ヤマザキ椎茸園が2年連続の林野庁長官賞を受賞しました。

なお、ヤマザキ椎茸園はこの品評会の入賞の常連で、2年前の第57回品評会では農林水産大臣賞を受賞されています。

◆ヤマザキ椎茸園の原木乾椎茸

ヤマザキ椎茸園では、「椎茸が喜ぶ環境を整えてあげさえすれば、必ず椎茸は美味しく育つ」という信念のもと、最適なほだ場づくりに力を注ぎ、肥料や農薬を一切使用せず、古来の栽培方法を守り続けながら乾椎茸を生産しています。

秋の黄葉の頃の伐採に始まり、2年もの時間をかけて森の中で育ち、自然のままに発生した椎茸は、野性味あふれる香りと、しっかりとした肉質が特徴となっており、今回の品評会においても、肉質や香り、艶のある美しさが高く評価されたものと考えられます。

このように、こだわりの椎茸栽培を続けるヤマザキ椎茸園ですが、園主の山崎隆さんにお話を伺ったところ、今の気候に合わせて、どのようにほだ場を作っていくかが、直面する大きな課題になっているとのことでした。

地球規模での気候変動が進む中、原木椎茸栽培の現場においても、気温の上昇や、降雨時期の変化による影響が生じており、これらの課題に対応するため、毎日山に入って、除伐や草刈りを行い、椎茸が喜ぶ環境を整えているとのことでした。

◆独自の情報発信

ヤマザキ椎茸園では、ホームページで椎茸栽培へのこだわりを発信するなど、情報発信にも力を入れています。このホームページの中に椎茸用語の基礎知識を紹介するコーナーがあるのですが、用語の解説と合わせて、園主の山崎さんが、自らデザインされたさまざまなオリジナルキャラクターが登場します。山崎さんは、ご自身の趣味を生かして、商品パッケージやパンフレット等を自らデザインされており、バラエティに富む、さまざまなデザインにとっても驚かされました。

椎茸用語の勉強にもなりますし、伝統の森林栽培の様子を描いた絵やオリジナルキャラクター等がホームページでご覧いただけますので、読者の皆様もぜひ一度見ていただければと思います。



独自の商品パッケージ



春子さん

日和子さん

秋子さん

ヤマザキ椎茸園
ホームページ

◆さいごに

ヤマザキ椎茸園の乾椎茸は、上述のホームページのほか、スーパーの地物コーナーや乾物コーナーで入手することができます。おいしいのはもちろんのこと、乾椎茸には、食物繊維やβグルカンなど、体に良い成分がいっぱいですので、皆様もぜひ一度手にとっていただければと思います。

遊びながら森を知る ～伊賀市の体験型なぞ解きゲームが始まりました～

伊賀農林事務所 林業普及指導員 二宮 健介

森の中を歩きながら謎を解く——そんなワクワクする体験型プログラムが、伊賀市の青山ハーモニーフォレストで始まっています。楽しみながら森林や自然について学べる新しい試みです。今回は、その見どころをご紹介します。

(遊びながら森を学ぶ、新しい体験)

令和8年4月から、青山ハーモニーフォレスト(伊賀市種生3137-1)で、体験型のなぞ解きゲーム「古代都市フォレスと失われた水の秘密」が始まりました。施設内の森林や芝生広場、遊歩道を実際に巡りながら謎を解き進めていく、周遊型のプログラムです。なぞ解きを楽しみながら森の中を歩き回れるのが、大きな魅力です。

「勉強」というと少し身構えてしまいがちですが、このプログラムなら家族や仲間と一緒に楽しみながら、森の大切さを自然と感じられます。中学生から大人まで、幅広い世代が挑戦できる内容になっています。

(森林環境譲与税を活用した担い手育成)

このなぞ解きプログラムの制作には、森林環境譲与税が活用されています。伊賀市では、この財源を森林整備とあわせて、将来の森林づくりを支える担い手の育成・確保に役立てています。

なぞ解きの答えは、すべて森林・林業に関連するものになっているのが特徴です。楽しみながら謎を解いていくうちに、木や森のこと、そしてそれを支える林業に触れられる仕掛けになっています。

ゲームを通じて森林・林業に興味を持ってもらい、その関心が将来の担い手の確保へとつながっていくことが期待されます。

(地元の高中生と一緒に創りあげました)

このプログラムのもう一つの特徴は、地元の高中生が制作に関わっていることです。伊賀市とともに地元の桜丘中学・高等学校のクイズ研究部や放送部、民間企業などと連携して作りあげました。

なかでも、物語の世界へと誘うオープニングムービーと、冒険の余韻を残すエンディングムービーは、同校の放送部の生徒たちが声を担当しており、親しみやすさを感じさせてくれます。また、プロ

グラムの制作に関わった中高生自身にとっても、森林への関心を深める貴重な機会になったことと思います。

今後は、本プログラムを活用して地域の高校生などを対象とした体験プログラムの実施や、企業向けの団体研修プログラムとしての活用も検討されています。

森と出会うきっかけが、さらに多くの人へと広がっていきそうです。



体験型プログラムのパンフレット

(開催概要・お申し込み)

開催期間	通年実施(毎週火曜定休)
場所	青山ハーモニーフォレスト(伊賀市種生3137-1)
対象	12歳以上推奨(※親御様が同伴であれば低年齢層も楽しめる内容となっています)
所用時間	2～3時間
参加費	1人1,000円(団体割引等あり)
参加方法	電話: 0595-55-2255 WEB: https://www.harmony-forest.org

拾って、育てて、里山へ。森林と福祉がつながる 社会福祉法人名張育成会が取り組む ～TSUNAGU(つなぐ)どんぐりプロジェクト～

伊賀農林事務所 林業普及指導員 二宮 健介

里山を守りたい。そして、働きたいと願う人を支援したい。この二つの想いが一つになったプロジェクトが三重県名張市で進んでいます。「TSUNAGU(つなぐ)どんぐりプロジェクト」—どんぐりを苗木まで育て、植えることで、人も環境も元気にする取り組みをご紹介します。

(TSUNAGU(つなぐ)どんぐりプロジェクトとは)

社会福祉法人名張育成会では、地域における社会貢献活動として、生活困窮者自立支援のための就労訓練(以下、「就労訓練」)事業に取り組んでいます。その活動の1つとして進めているのが「TSUNAGU(つなぐ)どんぐりプロジェクト」です。このプロジェクトは2022年秋にスタートしました。名張市内外にあるクヌギの木の所有者から許可をいただき、そのどんぐりをメンバーが丁寧に集めるところから始まります。水やりや管理を続け、これまでに約2,000本を育苗してきました。就労訓練に参加するメンバーが、どんぐりの採集や育苗、植樹などに取り組んでいます。



育苗の様子

(プロジェクトの広がり)

名張から始まった「TSUNAGU(つなぐ)どんぐりプロジェクト」は、いま三重県内へと広がっています。令和8年度には亀山市・鈴鹿市にほど近い山林で苗木の植樹が行われました。6月下旬、メンバーが苗を直接届けに伺うと、すでに100本が広い斜面にしっかりと植えられており、「自分たちの苗がこの広い山に植わっている…!」

と感動の声が上がりました。こうして今回植えられたクヌギは800本。約4年の地道な取り組みは確かな形となり、今回植えた苗は10年後、生い茂った森へと生まれ変わる予定です。



(左) 植樹の様子、(右) 苗木の様子

(どんぐり苗を植えていただける山林募集中!)

いま、レインボークラブのハウスには、メンバーが大切に育ててきた約2,000本の苗木がすくすくと育っています。そこで、この苗木を植え、育ててくださる山林の所有者や企業・団体を募集しています。

小さなどんぐりから始まる森づくりは、子どもから大人まで、年齢を問わず誰にでもできる身近な活動です。「会社や施設の敷地に緑を増やしたい」「子どもたちと一緒に木を育ててみたい」——そんな想いをお持ちの方は、ぜひお声がけください。

(お問い合わせ先)

社会福祉法人名張育成会レインボークラブ
電話:0595-67-4188 Email:rainbowclub@n-ikuseien.jp
Instagram:<https://www.instagram.com/tsunagudonguri/>



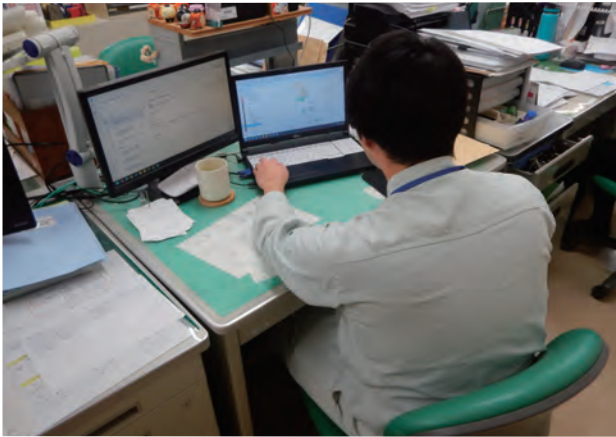
どんぐりの様子



意外と多い事務作業、パソコンスキルを林業で活かす！

中勢森林組合 福井 大地さん

今回は、中勢森林組合生産課で働き始めて4年目の福井大地さんにお話を伺いました。



4年目の福井大地さん

◆「林業」との出会いから中勢森林組合就職まで

もともとは郵便局で配達員として働いていた福井さん。趣味のバイクツーリングで自然と触れ合う機会があり、目的地がダムや山になりがちだったことから、林業に興味を持つようになったとのこと。

「林業の経験はゼロで、正直入れるかどうか不安でしたが、運よく採用していただきました。」

◆現在の業務

現在は、個人の森林所有者が伐採した山の範囲を測量し、補助金の申請を代行する「小規模事業」と、森林経営計画の作成を主に担当しています。また今年からは作業班の担当も持ち、出来高に基づく作業量の集計・管理業務も行っています。さらに、J-クレジット申請について森林経営計画担当として参画しています。

測量にはレーザーコンパスを使用し、QGISやクラウドGISを活用して森林簿や計画図を管理するなど、デジタルツールを積極的に業務に取り入れています。

「入組してから初めてGISソフトに触れましたが、もともとパソコンが得意だったので、すぐ慣れました。」

◆「林業」のやりがいを感じる瞬間

やりがいとして真っ先に挙げてくれたのは、個人の森林所有者との繋がりで。

「小規模事業で個人の所有者さんと接していると、本当に優しい方が多くて。補助金の申請をして、お金が戻ったときに感謝してもらえるのが一番嬉しいですね。山の中に秘密基地みたいなものを持っていて、そこでコーヒーをご馳走になったりすることもある（笑）。リアクションがあるのが、中での作業とは違う醍醐味です。」

◆「林業」で働いてみての感想

入組前に抱いていた「林業＝現場仕事」というイメージは大きく変わったといいます。

「図面作成、補助金申請、Excelでの集計など、意外と事務作業が多くてびっくりしました。週に一回山に行けたらいい方、というくらいで（笑）。逆に自分の得意分野が活かせて、運が良かったと思っています。」

◆「林業」の仕事に興味がある若者へ

「林業は現場仕事ばかりだと思っている方も多いかもしれませんが、事務作業の分野、補助金申請の分野など、屋内での業務もたくさんあります。頭を使う作業も多いですし、パソコンが得意な方でも活かせる仕事はいっぱいあります。現場仕事ばかりじゃないよ、ということを伝えたいですね。」



測量業務を行う福井さん

◆今後の抱負

「現場のことをもっとよく知りたいです。林業に適した山の見分け方や、作業班が動きやすい現場を作業班とコミュニケーションを取りながら作ってきたいです。」

また、後輩への指導やAI・ドローンといった新技術の活用にも積極的に取り組んでいきたいと話してくれました。

第124回 尾鷲市 水産農林事業推進課 千種 正則さん 紀北町 農林水産課 奥村 京英さん

聞き手：尾鷲農林水産事務所 林業普及指導員 伊藤 克之

カーボンニュートラルへの機運が高まる中、尾鷲市と紀北町は市町有林を活用したJ-クレジット創出に取り組んでいます。両市町は、FSC森林のグループ認証や、林業分野初の日本農業遺産「尾鷲ヒノキ林業」認定など、長年にわたり連携して森林施策を推進してきた間柄です。その両市町で市町有林の管理を担う2人に、J-クレジットへの取り組みの背景と現場の実情を聞きました。



左：千種氏 右：奥村氏

— まず、お二人のお仕事を教えてください。

千種氏 市役所に勤務して32年目になります。林業技師として採用され、J-クレジットの申請業務を含め、市有林の管理を主に担っています。

奥村氏 役場に勤務して28年目、事務採用です。農林水産課に来て5年目で、J-クレジットは主に私が主務として進めています。

— 管理している市町有林の規模を教えてください。

千種氏 尾鷲市の森林面積は約1.7万haで、市有林は森林整備センター分を含め約5,000ha、3割弱を占めます。かつては10人以上の山林作業員がいましたが、現在は3名です。

奥村氏 紀北町は森林面積約2.3万haのうち、町有林が約4,400haです。山林作業員は2名で、下刈りや枝打ちは主に直営で行い、間伐等は委託し

ています。森林経営計画における間伐の下限面積の確保や林分の高齢級化、収入面など課題が重なっています。

両名 両課とも林業技師は2名ずつですが、20代がいません。山の場所や境界といった知識は長い時間をかけて引き継ぐ必要があり、後継者不足は切実な懸念です。

— J-クレジットに取り組んだきっかけは？

千種氏 令和4年3月の尾鷲市ゼロカーボンシティ宣言がきっかけです。脱炭素に取り組む3つの柱の1つ（二酸化炭素吸収）としてJ-クレジットの取得に取り組みました。

奥村氏 令和3年4月に県内6町で行った広域ゼロカーボンシティ宣言がきっかけです。長年にわたり整備してきた豊かな森林を活かしつつ、財源確保にもつなげられると考えました。

— 現在の取組状況を教えてください。

千種氏 大きく2つのルートがあります。一つはLINEヤフー株式会社で、同社が募集した地域カーボンニュートラル促進プロジェクトに尾鷲市が応募し、企業版ふるさと納税を受けたことがきっかけとなり、令和6年から10年間500t-CO₂/年の売買契約を結んでいます。もう一つは本市の戦略パートナーである株式会社paramitaとの連携のもと、本市のJ-クレジットをブロックチェーン上でのNFT技術を活用したデジタルアートに紐づけ、企業の商品やサービスに組み込んだ「エシカル商品」として、販売しています。

奥村氏 プロジェクトの登録が今春に完了し、現在はモニタリング調査の準備を進めています。NTT西日本の子会社である、株式会社地域創生Coデザイン研究所を共同創出者として成功報酬型の協定を結んでおり、基礎データのとりまとめから購入先の探索、審査費用の立替まで対応してもらえる体制です。クレジットが販売されて初めて費用が発生する仕組みで、今年度中に創出までこぎつけたいと思っています。

— 苦労したことはありますか。

千種氏 モニタリング測量が大変でした。クレジット創出には施業区域の測量データが必要ですが、市有林は高齢林が多く国・県の造林補助事業の対象となりにくかったことから測量データが残っていませんでした。そのため、これまで人工林約590haの測量を職員や業務委託により実施しました。来年度には完了予定です。また申請件数の増加で審査機関の順番待ちが生じており、年度単位で動く役所の業務との調整にも苦慮しています。

奥村氏 紀北町では造林補助申請の実績があり、測量成果は残っていました。ただ、過去の造林申請書類がどれだけ保存されているかを現在確認中で、認定面積にも関わる重要な作業です。また林班ごとの現場確認が必要で、職員2名で町内全域に広がる町有林を回るのはかなりの苦労がありました。審査費用は共同創出者がいったん立て替えてくれるため、年度をまたぐ予算執行の問題は生じにくい体制になっています。

— 今後の方針を聞かせてください。

千種氏 J-クレジット取得の取り組みについては、林業振興策の一つとして捉えており、市有林では、J-クレジットを取得しつつ、一方で林業経営に適した林道沿いの集材効率が良く災害リスクの低い森林は従来通り主伐再造林による林業サイクルを目指し、民有林では、手入れのされていない森林について 森林経営管理制度等を活用しながら森林整備を行い、J-クレジットの対象面積を広げていきたいと考えています。

奥村氏 J-クレジットの取り引きをきっかけに、紀北町に想いを持った企業とのつながりや交流が活発になっていけばうれしいです。

両名 J-クレジットで得られる資金が莫大なわけではありません。でも、これをきっかけに企業の方が実際に山に来て活動したいという声も届き始めています。クレジットの購入だけで終わらず、企業の社員が山に入り、そこから新たなサービスが生まれ、その企業のお客さんまで地域に関心を持ってくれるようになれば、そんな広がり期待しています。

取材をおえて

近年、J-クレジットへの関心が高まっています。取り組むこと自体が先行してしまいがちですが、お二人の話を聞いて、あくまで手段として捉え、

その先に何を指すかを大切にしていることが伝わってきました。クレジットをきっかけに企業や人が山に来て、地域との新たなつながりが生まれていく。そんな両市町の取り組みを、引き続き一緒に盛り上げていけたらと思います。



昨年から実施している尾鷲市有林での列状間伐



紀北町有林での枝打ち作業後の林分。
尾鷲ヒノキの優良材（無節材）生産を目的としている。

【用語解説】

○J-クレジットとは

J-クレジット制度は、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用、森林管理などによるCO₂等の排出削減・吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。認証されたクレジットは市場で売買でき、購入した企業はカーボンオフセット（自社の排出量の埋め合わせ）に活用できます。森林管理によるクレジットは「吸収系」と呼ばれ、適切な間伐・枝打ち等の施業を行うことで、森林のCO₂吸収量の増加分がクレジットとして認められます。自治体にとっては森林管理の財源確保と企業との連携促進、企業にとっては脱炭素経営の実現という、双方にメリットのある仕組みとして注目が高まっています。

<三重大学>第38回

三重大学・地域脱炭素バイオマス研究センター

木質分子素材制御学研究分野 野中 寛

三重大学には「地域脱炭素バイオマス研究センター」があります。身近なバイオマス資源の処分や利活用でお困りのことがあれば、是非ご相談ください。地域資源として有効活用し、経済を循環させ、地方創生につなげましょう。

地域脱炭素とは

2020年10月26日、当時の菅総理大臣は、所信表明演説において「わが国は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました¹⁾。2050年の脱炭素社会の実現には、国と地方の協働・共創による取組が必要不可欠で、内閣官房は国・地方脱炭素実現会議²⁾を設置し、令和3年6月には「地域脱炭素ロードマップ」³⁾を策定しました。2025年までに地域脱炭素に意欲のある地域を100か所以上、脱炭素先行地域として設定し（令和8年2月13日時点で102提案が選定され募集終了）、2030年以降それらの取組がドミノ的に全国に波及することが期待されています³⁾。地域脱炭素は、脱炭素を成長の機会と捉える時代の地域の成長戦略であり、自治体・地域企業・市民など地域の関係者が主役になって、今ある技術を使って、再エネ等の地域資源を最大限活用し経済を循環させ、地域の課題をあわせて解決しながら、地方創生に貢献できるものです³⁾。

脱炭素先行地域では、まず民生部門の電力消費に伴うCO₂排出の実質ゼロの実現が目標とされています⁴⁾。しかし風力発電や太陽光発電は、近年建設地域との合意形成が難しく、自然災害の誘発、地域経済への貢献が少ない等の懸念があります。その点、地域資源である木材や農業廃棄物、食品廃棄物、下水汚泥などバイオマス資源は改めてその重要性が見直されています。

三重大学・地域脱炭素バイオマス研究センター

地域脱炭素を推進する上で、特に小規模な地方公共団体における財源不足や専門知識を有する人材不足も指摘されています³⁾。三重大学（特に生物資源学研究科）では、多数の教員が、バイオマ

ス資源量把握、新規バイオマス資源の開拓、燃焼灰の利用、バイオ炭、バイオボード、バイオ水素、バイオ燃料、バイオケミカル、バイオプラスチックなど、バイオマス分野の先端的、実践的、基礎的研究を展開しています。これらの研究を集約・構造化し、2023年4月に「地域脱炭素バイオマス研究センター」が設立されました（終了年未定）。新しい研究連携や技術協力を生むことにより、バイオマス研究を深化し、環境先進大学・三重大学の「脱炭素研究力」の一翼を担います。また地域脱炭素の取組を行う自治体や民間企業に対しても、有益な知の供給を行い、産学共同研究の窓口になるなどして、県内、国内でのバイオマス原料の確保拡大、地域の課題解決に結びつけることを目指します。

三重県は南北に長く、北は大都市圏に近く、また四日市には石油化学コンビナートがあります。一方で、中勢から南勢にかけては一次産業が盛んで、バイオマス資源が豊かです。バイオマス資源を熱・電力として使うのみならず、石油に代わる化学産業の原料としてとらえ、バイオマス由来の化学品を生産しうる立地にも恵まれています。輸入で県内に入るバイオマス資源も含めて、県内で利用・生産する三重県モデルを構築すれば、地域課題を解決しながら、新産業を創出する脱炭素モデル県として全国に大きなインパクトを与えることができます。

4つの研究グループ(図1)

2026年8月現在、センターは17名の教員で構成されており、森林資源環境学講座からは、筆者の野中寛（センター長）のほか、板谷明美（森林利用学）、徳永有希（木質分子素材制御学）が参画しています。研究内容により、以下の4グループに分けています。

(1) バイオマス開拓研究グループ

県内、国内でのバイオマス原料の資源量を把握し、適切に集材して確保すること、バイオマス資源として用いることができる新たな植物の探索、開拓に関する研究を行う。サゴヤシのような資源作物や飼料用イネ、ソルガムなども新しいバイオマス資源として期待される。また、これらを地域

の課題解決、例えば荒廃農地等の有効活用などに結びつけた研究も推進する。

【研究例】GIS (Geographic Information System) による木質バイオマス資源の集材範囲の推定、リモートセンシングデータによる広域の木質バイオマス資源の把握、UAV (Unmanned Aerial Vehicle、ドローンなど) による単木材積の推定、中山間地域の林地保全を目指した太陽光パネルの配置、荒廃農地の活用としての木質バイオマス (ヤナギ) 生産、セルロース系バイオエタノール原料作物の栽培技術開発、サゴヤシの栽培 など

(2) バイオマス発電研究グループ

木質バイオマス発電、バイオマスの熱利用などに、各種バイオマスを燃料として供するための炭化、ペレット化、粉碎性を向上させる半炭化と呼ばれる処理などの研究を行う。またバイオマス資源にはミネラルが含まれており、副産物となる燃焼灰の有効利用に関する研究を行う。

(3) バイオマスマテリアル研究グループ

バイオマス資源は、燃料として使うことが可能であるが、本研究グループでは、国内、海外より収集されたバイオマス、あるいは、食品廃棄物などを燃焼させず、比較的容易な物理的破碎や蒸解で得られる繊維や粉体を、飼料やボード等材料として活用する研究を推進する。燃焼や生分解では、植物中の炭素は二酸化炭素として放出され、カーボンニュートラルとなる。バイオマスを炭化した「バイオ炭」の農業利用や地中貯留は、カーボンネガティブ技術として新たに注目されている。

(4) バイオケミカル研究グループ

脱炭素社会構築に向けて、「バイオマスリファイナリーシステム」の確立が期待される。現在市場にでているバイオエタノール、バイオマスプラスチック (バイオポリエチレン、ポリ乳酸など) は、さとうきび由来のショ糖や、とうもろこし由来のデンプンを糖化、発酵、化学合成により得られたものであり、“第一世代”と呼ばれる。しかしこれらは食糧との競合問題があるため、木材、竹、稲わらなど、セルロース系バイオマス資源の利活用が重要となる。これまで数多くの国家プロジェクトが行われているが、いまだ国内で実用している事例がない。しかしながら、生物資源学研究科には当該分野の研究者が多く、バラエティ豊かな三重バイオリファイナリー研究をアピールできる可能性がある。

木材、竹、稲わらなどの主成分は、セルロース、ヘミセルロース、リグニンである。バイオマス中のセルロースやヘミセルロースは単糖へと変換し、発酵によりエタノールなど様々なバイオケミカル

(液体燃料や化学原料) を生産する。リグニンは芳香族系高分子であり、植物から新規プロセスによりうまくとりだして、芳香族系のプラスチックや接着剤などとして利用する。また各種バイオマスのメタン発酵に加え、バイオ水素生産もホットピックである。

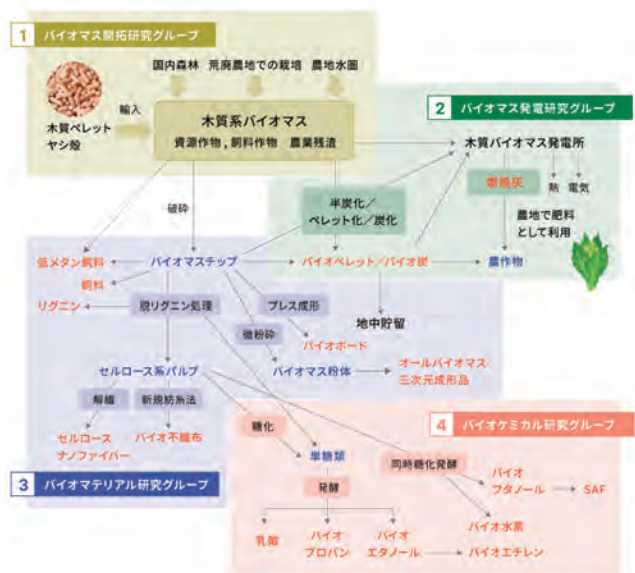


図1 三重大学・地域脱炭素バイオマス研究センターの研究範囲 (4つの研究グループ)

おわりに

本リサーチセンターは、資源調達・開拓から利用まで、すなわち川上から川下までをカバーする、日本では類を見ない包括的バイオマス研究センターであり、全国的にも注目される研究拠点です。三重県のみならず、他県も含めて地域脱炭素活動に関する共同研究の受け皿、競争的資金への共同申請、あるいは良きアドバイザーとして貢献していきます。本稿をご覧の皆様は、主に三重県で森林・林業に係わる方だと存じますが、木材に限らず、周辺には様々なバイオマス資源があると思います。お気軽にご相談ください。

Email: rdbiomass@sansui.mie-u.ac.jp
(地域脱炭素バイオマス研究センター)

引用・参考文献

- 1) 菅内閣総理大臣所信表明演説 (令和2年10月26日)
<https://www.gov-online.go.jp/prg/prg21455.html>
- 2) 内閣官房 国・地方脱炭素実現会議
<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/datsutanso/index.html>
- 3) 環境省 地域脱炭素とは
<https://policies.env.go.jp/policy/roadmap/chiiki-datsutanso/>
- 4) 環境省 脱炭素先行地域
<https://policies.env.go.jp/policy/roadmap/preceding-region/>

スギコンテナ大苗の植栽コスト検証

林業研究所 主査研究員 海津 江里

地拵えから下刈りまでの造林初期費用は育林経費の多くを占め、再造林を進めるうえで大きな負担となっています。林業研究所では、造林初期費用の削減対策として、スギコンテナ大苗利用の効果を検証しています。今回は、スギコンテナ大苗を植栽する際のコストについて紹介します。

●はじめに

持続可能な林業経営を行ううえで、山元立木価格に対して、地拵えから下刈りまでの造林初期費用が高いという課題があります（林野庁 2025）。伐採・再造林を含む持続可能な林業経営を行うためには、伐採、搬出経費と育林経費の低減を併せて進める必要があります。造林初期経費は育林経費の約7割を占め、特に、下刈り作業や獣害防護柵の設置コストが大きく（林野庁 2026）、山元立木価格が伸び悩む中で大きな負担となっています。

この課題解決の一つの方法として、苗高が通常の苗より高い大苗の活用が様々なところで行われています。大苗を植栽することで、シカの食害を受ける高さを早期に脱し食害の影響を少なくする効果や、下草との生存競争にも有利になるため、下刈り回数の削減が期待されます。

しかし、その一方で、大苗は普通苗に比べてサイズが大きく重いため、運搬や植栽にかかる労力が増し、かえってコストを押し上げるのではないかという懸念もあります。実際、スギポット大苗やヒノキコンテナ大苗では普通苗より植栽コストが高かったとの報告があります（鹿又ほか2010、近藤・袴田2017）。

そこで、植栽コストと運搬労務の低減が見込める伐採と造林の一貫作業の活用を想定してスギコンテナ大苗の植栽コストを調査しました。

●スギコンテナ大苗の植栽方法

調査は、津市内の平坦地と平均傾斜27度の傾斜地の2か所で行いました。平坦地では、スギコンテナ大苗（樹高90cm以上、以下、大苗）、スギコンテナ普通苗（以下、普通苗）、スギ裸苗（以下、裸苗）を植栽し（写真1）、傾斜地には大苗と裸苗を植栽しました。平坦地、傾斜地ともに、唐鋤

もしくはバチヅルを使用して植栽しました。大苗は樹高が高く、普通苗より形状比（樹高／根元径）が大きくなる傾向があり、風等による倒伏のリスクがあるため、1.2mのイボ竹を支柱として設置し、苗木を固定することで倒伏リスクの低減を図りました。

●植栽時間とコスト

植栽作業をビデオカメラで撮影して、植栽作業にかかる時間を算出したところ、1本あたりの植栽にかかる平均作業時間は、平坦地では大苗が4分46秒であったのに対し、普通苗は3分13秒、裸苗は3分22秒でした。傾斜地においても、大苗が2分34秒、裸苗が1分25秒となり、いずれの条件下でも大苗の作業時間が最も長くなることが確認されました（図1）。傾斜地はスギ、ヒノキ人工林の皆伐跡地に植栽したのに対し、平坦地はササとススキが繁茂していた場所を伐開して植栽しているため、地中に密に残った地下茎により鍬が深く入らなかったことに加え、地下茎の切断が必要な場合もあったことで、平坦地では、植え穴掘りと周囲の土を使って土を戻す作業に多くの時間を要しました。

大苗が普通苗や裸苗より作業時間が長くなった要因は、サイズが大きく重い苗木と支柱を運搬する必要があるため、移動に時間がかかること、根鉢の大きい大苗の植え穴を掘るのに時間がかかること、さらに、大苗のみ支柱固定作業が必要なことです（写真2）。



写真1. 平坦地への植栽苗木
左：裸苗、中央：コンテナ普通苗、右：コンテナ大苗

この作業時間の差を、ヘクタール当たり2,000本を植栽するという条件で経費に換算すると、大苗は普通苗に比べて労務費だけでヘクタール当たり平坦地で約21万円、傾斜地で約16万円の増加となりました。さらに、今回使用した支柱の費用を含めると、ヘクタール当たりのコスト増加額は平坦地で約34万円、傾斜地で約29万円に達します。この金額は、三重県の造林事業標準単価で下刈り1回分の経費の約1.4～1.7倍に相当します。このことから、大苗の導入によって下刈り作業を2回以上省略することができれば、この初期投資の増加分を十分に回収し、トータルでのコスト削減を達成できる可能性があります。

さらに、植栽密度に着目した試算も行いました。その結果、コンテナ大苗の植栽密度を1,100本/haまで減らすと、2,000本/haの普通苗を植栽する場合とほぼ同等の植栽経費となることが分かりました。

●スギコンテナ大苗は通年植栽可能か

コンテナ苗は、根を傷めずに植栽できるため、季節を問わず植栽できる「通年植栽」への適用が可能です。伐採搬出後すぐに植栽作業を行い、搬出に使用した機械を地拵えや資材の運搬に使用することで、コストと労務の低減が期待でき、サイズと重量の大きな大苗の場合は普通苗よりさらにその効果が大きいと考えられます。

2024年8月、10月、2025年1月、4月にスギコンテナ大苗を30本ずつ植栽した調査地では、2026年4月時点で、どの時期に植栽した苗木も9割以上の苗木が生残しており、通常のコンテナ苗と同様にコンテナ大苗でも幅広い時期に植栽できる可能性があることが期待できます。

●まとめ

大苗の植栽コストは確かに高いものの、「下刈り回数削減」効果を見込むことや、「低密度植栽(1,100本/ha以下)」を組み合わせることで、従来の普通苗植栽と同等か、それ以上のコスト低減を目指すことが期待できます。また、幅広い時期で高い活着率を示したことは、伐採と造林の一貫作業での利用も見込めます。

今後は、これらの結果を踏まえ、下刈りや獣害防護柵の有無が苗木の生残や成長に与える影響を調査し、三重県におけるスギコンテナ大苗を用いた際の、植栽から下刈り完了までのトータルでの費用削減効果を明らかにしていく予定です。

参考・引用文献

- ・鹿又秀聡, 矢部恒晶, 重永英年, 野宮治人, 齋藤英樹, 荒木眞岳. 2010. 日本森林学会大会学術講演集121
- ・近藤晃, 袴田哲司. 2017. 静岡県農林技術研究所研究報告10号
- ・林野庁. 2025. 令和6年度森林・林業白書：全国林業改良普及協会
- ・林野庁. 2026. 令和7年度森林・林業白書：全国林業改良普及協会



写真2. 大苗の支柱固定作業

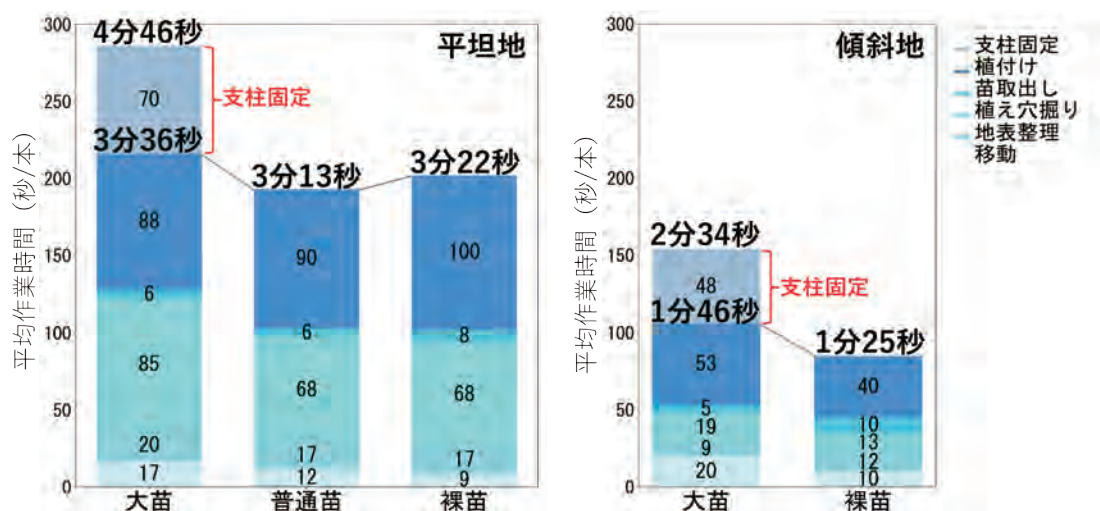


図1. 平坦地と傾斜地での植栽平均作業時間

三重の林業統計数字を読み解くシリーズ ②

新設住宅着工戸数の動向について
～ 住宅着工戸数は約60年前の水準! ～

三重県林業技術普及協会 顧問 佐々木 太

数字はその時その時の時代を表す一つのツールだと思います。

県の林業統計書や整理保存している色々な林業関係統計数字を基に、昭和39年、林業基本法の制定、東京オリンピック開催、県庁舎落成等の年を起点に昭和～平成～令和の時代まで、色々な林業数字を読み解きたいと思い、少しでもお役に立てればと「三重の林業」に投稿する次第です。

● 新設住宅着工戸数の推移

(1) 住宅着工戸数は約60年前の水準

最近の新設住宅着工戸数は、人口減少、少子高齢化、諸資材の高騰等から減少傾向で、2025年は7,342戸が建てられ、約60年前（1964年）とほぼ同水準になっています。

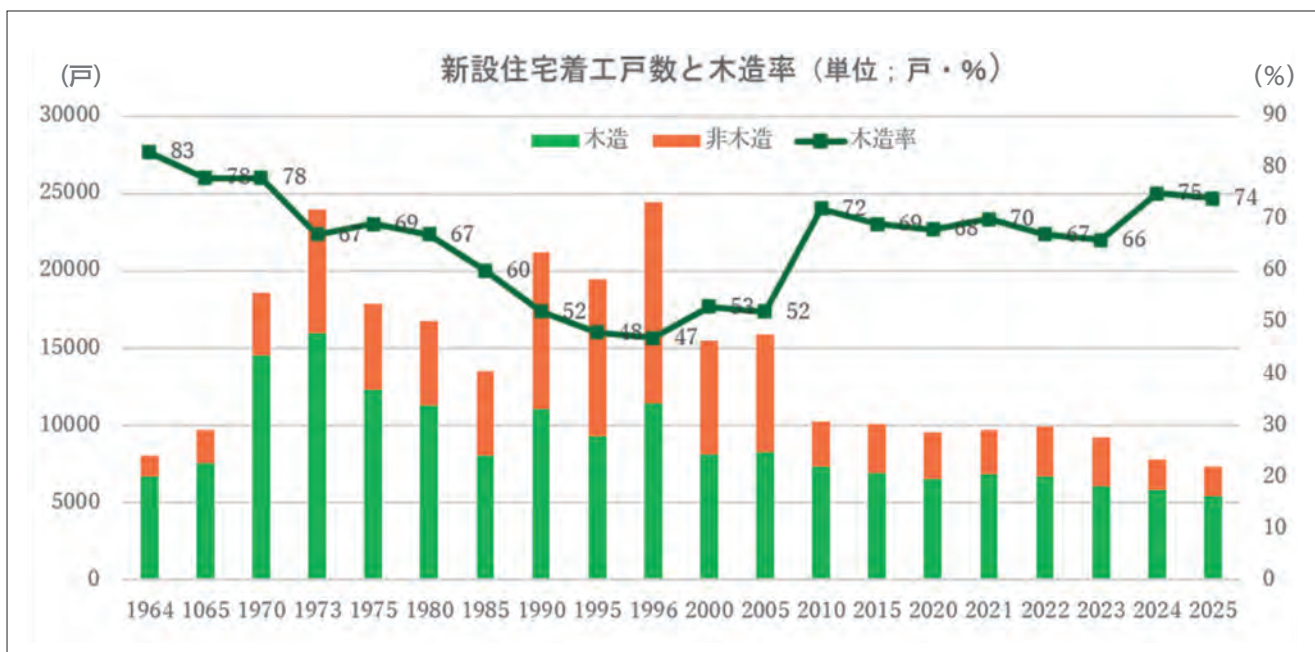
1964年の7,990戸から1973年23,939戸まで増加しその後減少に転じ、1983年12,783戸を底に再び増え続け、1996年24,416戸とピークに達します。その後1998年に2万戸を割り、2011年には1万戸を割込み、昭和・平成バブルが崩壊し、経済が停滞するいわゆる「失われた30年」減少が続いています。

(2) 木造住宅は5千戸台まで減少!

林業の好不況に直接関連する木造住宅建設は、1964年に6,645戸が建てられ木造率は83%で、その後住宅建設と同様増減し、ピークは1973年15,924戸と1万5千戸を超えましたが、その後減少に転じ、1985年8,033戸まで低下しました。1986年以降1996年まで約1万戸前後とほぼ横ばいで推移しましたが、2005年までの10年間は8千戸前後で推移し、2008年には10,199戸となり1万戸を再び回復しますが、翌2009年に7,230戸と約3割減と大幅に減少に転じ、その後2019年までは約7千戸台、2023年までは6千戸台で、2024年は5,793戸、2025年5,448戸と1964年以来初めて5千戸台と最低となりました。

(3) 近年、木造住宅率は70%台で横ばい

木造住宅の全住宅に対する割合の木造率は、1964年の83%をピークの低下を続け、1991年に50%を割込み、1997年45%まで低下しました。その後やや回復し2006年まで50%前後で推移し、2007年の57%から上昇に転じ、2013年には76%まで上昇し、近年はおおむね70%前後の横ばいで推移しています。



●木造住宅の工事予定額は2023年から急増！

木造住宅の1戸当たり工事予定額は、統計記録にある2012年の2,163万円から増加を続け、2025年には1.4倍増の3,045万円と3千万円を超えました。

特に2023年は前年比12%、378万円増の2,654万円、2024年は9%、230万円増の2,884万円、2025年は6%、161万円増の3,045万円となり、最近3年間で34%、769万円増と諸資材の高騰等が影響しております。

住宅着工戸数は、2012年以降おおそ1万戸前後で推移してきましたが、2023年以降日本経済の物価高、人手不足等による工事費の高騰などから減少に転じ、2025年には7千戸台になりました。（3年間で2,570戸、26%減）

木造住宅も減少していますが、2025年は5,448戸となり、3年間で1,218戸、18%減で住宅全体より減少がやや緩やかになっています。

●住宅を除く建築物の木造率は上昇傾向か！

2010年に「公共建築物等の木材利用促進法」が制定され、2019年の「森林環境譲与税」の導入などにより、公共建築を主に住宅以外の建物の木材利用が進んでいます。そこで、住宅を除く店舗等の非住宅建築の木造率を調べてみました。

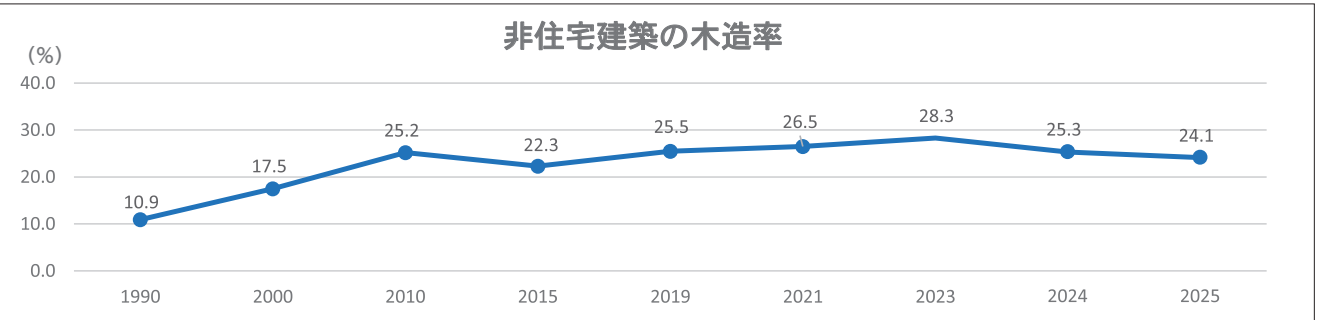
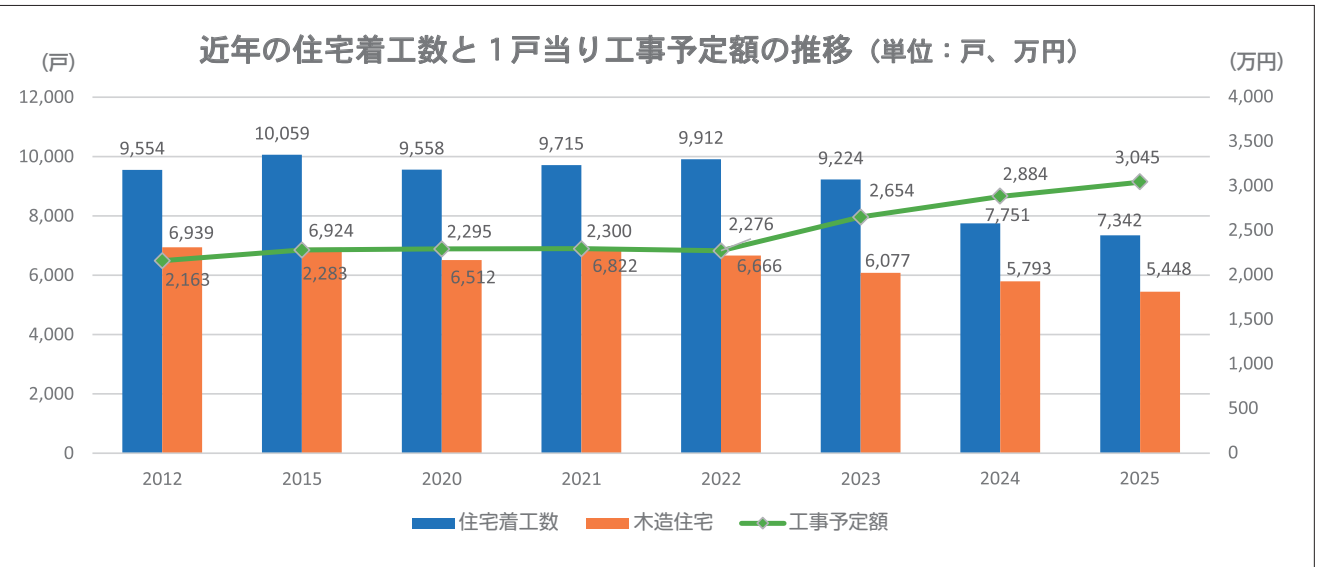
非住宅建築物の木造率は、1990年の11%から年々増加し、2023年には28%になり、2024年25%、2025年24%と少し低下しましたが、おおむね上昇基調か。

2025年の非住宅建築1,255棟のうち、木造建物は303棟で木造率は24%となっています。

用途別を見ると、病院・診療所が58%と高く、次いで事務所が43%となっており、工場が5%と低い状況です。

（参考資料：国土交通省 建築着工統計、住宅着工統計）

区分	建築数（棟）	木造数（棟）	木造率
事務所	154	66	43%
店舗	111	40	36%
工場	111	5	5%
倉庫	216	37	17%
学校	29	4	14%
病院	33	19	58%
その他	601	132	22%
計	1,255	303	24%



地域	区分	樹種	長さ	径	品質	平均価格	高値	前回比	市況
松阪	素材	スギ	3m	16～18cm	並	13,000	14,000	→	（供給動向、価格概況、先行き等） 【素材】 ・夏場の市ということもあり、全体量は少なめ。 ・相場としては、良質材のみ引き合いがある状況。それ以外は、やや売りにくい状況。 【製品】 ・先月と同様、客足も少なく厳しい状況。
			4m	20～22cm	並	13,000	14,000	→	
			4m	24～28cm	並	13,000	14,000	→	
			6m	18～20cm	並	16,000	18,000	→	
		ヒノキ	3m	16～18cm	並	22,000	25,000	↑	
			4m	20～22cm	並	20,000	22,000	↑	
	製品	スギ	4m	24cm以上	並	20,000	22,000	↑	
			6m	18～20cm	並	28,000	30,000	↑	
		ヒノキ	3m	10.5×10.5cm	特一	80,000	90,000	→	
			3m	10.5×10.5cm	特一	90,000	100,000	→	

※価格は消費税抜きとし単位は円／m³。積込料、取扱手数料は含まない。製品はいずれもKD材。 前回比は6月の市況との比較。

三重の林業(令和8年7月号)を読んで

～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～

（全国植樹祭えひめ2026に参加してきました！）

・前大会で植えた木を伐採・製材した木材を活用し、緑の循環利用が体现されたことは、非常に良いと思った。

（松阪市飯高地域にて「木のうたプロジェクト」がスタートしました！）

・「うた」というこれまでにない方法に目を向けられた点が印象的で、強い創意を感じた。

（アーボリスト®が拓く、三重の林業の新たな可能性）

・通常の架線や重機で対応しきれない巨木・高木に対応するための技術として、今後一層注目が集まる分野ではないかと思います。

（地域の自然と知恵が育んだ帆船を受け継ぐ「熊野川体感塾」）

・「三反帆に使われている4種類の木は、正に適材適所。先人の知恵を学び直す必要がありますね。

（子どものときに志した林業の世界へ）

・子供だけでなく親も林業体験に参加するようにしたら、家族で自然や林業に興味をもってもらえ、将来につながると思います。

（設立5年目を迎えた みえ林業総合支援機構）

・林業就業者の確保の取組は林業事業体にとってもなくてはならないことだと思う。

・1年未満で離職した人の声を真摯に受け止めることでミスマッチの改善策が見えてくると思う。

（西垣林業株式会社 三重事業所マルチピア 上田一元さん）

・地域の出荷主の方々が材を出しやすい環境を作られていることが素晴らしい。

・西垣林業の総合力と上田さんの行動力の凄さを感じた。

（＜三重大学＞地域によって異なるニホンジカによる採食の植生への影響）

・餌肥林業地でシカの個体数が少ない原因を研究し、本県のシカ被害の減少に役立ててください。

（スギ大径材から製材された板材について）

・調査結果を広く普及することで、大径材は住宅向けの化粧板として、低質材は集成材のラミナ等として有効活用されることが期待されます。

（特用林産物生産の動向について）

・人気になるキノコにも時代のトレンドがあると思います。これを機に、店頭に出回っているキノコの産地についても注目してみようと思います。

（木材市況(令和8年6月)）

・ヒノキ材の価格がここ数か月でかなり落ちたように感じました。

※いただいた感想、コメントを事務局で集約し掲載しています。



森林はさまざまな公益的機能を持っています。

三重県森林協会は、豊かで災害に強い森林づくりを目指して活動しています。

治山・林道等の森林土木関係の標識板等の注文にも応じています。

お気軽にご相談ください。

一般社団法人 **三重県森林協会**

TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220



台風・山火事などの災害による森林の損害に備え、森林保険にご加入ください



「加入してよかった！」

お問合せ・お申込みは、お近くの森林組合または三重県森林組合連合会まで

守ろう地球と地域の環境 ー緑と水を育む水源林づくりー

私たちは森林整備センターによる
水源林造成事業を進めています。

三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104(林業会館内)
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

森林づくりの(わ)を広め、健全な森を次の世代へ



植える 緑化から 使う 緑化へ

みんなの思いを、緑の募金でつなぎましょう

公益社団法人 三重県緑化推進協会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地
TEL (059) 224-9100 FAX (059) 224-9118

緑の募金ー三重緑化基金

林業用苗木の生産・販売

ー緑資源は優良苗木でー

三重県林業種苗協同組合連合会

会長 辻 和彦

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-7387



地元で育まれた品質の確かな

「三重の木」認証材で家を建てよう!

「三重の木」利用推進協議会

TEL.059-228-4715 <http://www.mienoki.net/>

三重県木材組合連合会 三重県木材協同組合連合会

会長・理事長 落合賢治

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-4715

みえ森づくりサポートセンター

「みえ森づくりサポートセンター」は、みなさんの森林教育、
森づくり活動の支援を行う施設です。ご活用ください。

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内
TEL 059-261-1223 FAX 059-261-4153
mail miemori@zc.ztv.ne.jp web <http://www.zb.ztv.ne.jp/miemorisc>
(三重県が公益社団法人 三重県緑化推進協会に委託し運営しています。)



「林業就業希望者の相談対応」、「林業人材育成研修」、「林業経営体支援」など
林業に関する総合的なサポートを行います!



林業を支える人々を応援します、

森林を未来へ繋げるために



公益社団法人

みえ林業総合支援機構

津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所交流館内
Tel : 059-261-1398 HP : <http://miekikou.jp>

インテリアからエクステリア等 **木製品** **伐採 チェンソー・草刈機**

お任せください!

中勢森林組合 **見積無料!!** 三重県津市白山町南家城 915-1
TEL 059-262-3020 <http://www.chusei-forest.jp> **STIHL Shop**
TEL 059-264-1070

森林・木材販売に関することならなんでもご相談下さい!

間伐作業 高枝切作業 菌床きのこ生産 液体ガラス改質木材 家具製作販売 足場・支柱 製造販売

JForest 松阪飯南森林組合
【本所】〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見 5725-3
TEL.0598-32-3516 FAX.0598-32-3545
◆各支所所在地についてはHPをご覧ください <https://mi-sinrin.or.jp>

三重で木のこと

OKO 株式会社 オオコチ

三重のサステナブル経営アワード受賞 みえの木建築コンクール優秀賞受賞 JAS 認証工場 三重の木認証工場

三重県松阪市大黒田町 472 TEL : 0598-26-1551 FAX : 0598-21-2676 E-mail : info@ookochi.co.jp HP : <https://www.ookochi.co.jp>

熊野の森から、やさしさをあなたへ

株式会社 nojimoku
〒519-4324 三重県熊野市井戸町 4185-18
TEL : 0597-85-2485 FAX : 0597-85-4056
HP : <http://nojimoku.jp>

のじもくま

航空レーザ計測技術を活用した ICT 林業を推進

<http://www.ajiko.co.jp/>

アジア航測株式会社
三重営業所
三重県四日市市安島一丁目5番10号
KOSCO四日市西浦ビル
TEL : 059-342-0501 FAX : 059-342-0503
森林環境課・森林情報課
神奈川県川崎市麻生区万福寺1-2-2 新百合21ビル

持続的な林業経営を目指して

三重県林業経営者協会

会長 速水 亨

度会郡大紀町滝原870-34 ひのき家内

注文住宅 太陽光 × 制震装置 × デザイン × コストパフォーマンス

完全自由設計の家づくり

oh!! one house. 0120-02-1936
[営業時間] 9:00 ~ 18:00 [定休日] 水曜日

HP Instagram YouTube